

レポート

「レポートの書き方について」

2020年5月5日  
東京中華学校講師代理  
きよし  
なめこ

## 目次

### 1. 本レポート執筆の理由と目的

#### 1.1 本レポート執筆の理由

#### 1.2 本レポート執筆の目的

### 2. レポートとは

### 3. レポートの要素

#### 3.1 表紙・表題・ファイル名

#### 3.2 目次

#### 3.3 ページ番号

#### 3.4 情報・文献の出典の明記

#### 3.5 レポートの内容

### 4. レポート執筆時の禁止事項

#### 4.1 盗用

#### 4.2 盗用の発見・露見

#### 4.3 盗用が禁止される理由

### 5. 今後のレポート執筆において

## 1. 本レポート執筆の理由と目的

### 1.1 本レポート執筆の理由

2020年5月6日までの課題提出内容を見ると、2020年度東京中華学校（以下「TCS」）高1生徒の多くが適切なレポート執筆の仕方を知らないと推察される。そうだとすると、それはまずい。

### 1.2 本レポート執筆の目的

2020年度 TCS 高1 生徒に適切なレポート執筆の仕方を理解してもらおう。

## 2. レポートとは

レポートとは報告文書のことである。報告文書にはビジネスにおける報告文書や学術的な報告文書などがある。いずれにしても、論旨が明快で客観的思考にたえるものでなくてはならない。なぜなら、レポートはその報告を受け取る相手が読んで理解できるものでなければ意味がないからである。

中学校や高校の課題も報告文書であるので、レポートである。

## 3. レポートの要素

### 3.1 表紙・表題・ファイル名

表紙または表題は必ず付けよう。またその表題は内容の主旨を示すものにしよう。コンピューターで執筆したレポートをファイル形式で提出する際は、そのファイル名も同様にレポート内容の主旨を示すものにしよう。また表紙・表題には作成日時その他、作成者の所属、名前などを明示しよう。

### 3.2 目次

内容が多岐に渡る場合、目次を付けよう。

### 3.3 ページ番号

レポートにはページ番号を付けよう。

### 3.4 情報・文献の出典の明記

レポート内で取り扱う情報や文献については、必ずその出典を明記しよう。既存・既製の情報や文献は出典を示して引用するのである。

### 3.5 レポートの内容

レポートの内容は表題内容と一致させよう。また無駄を省いて、要点・結論から説明しよう。

## 4. レポート執筆時の禁止事項

### 4.1 盗用

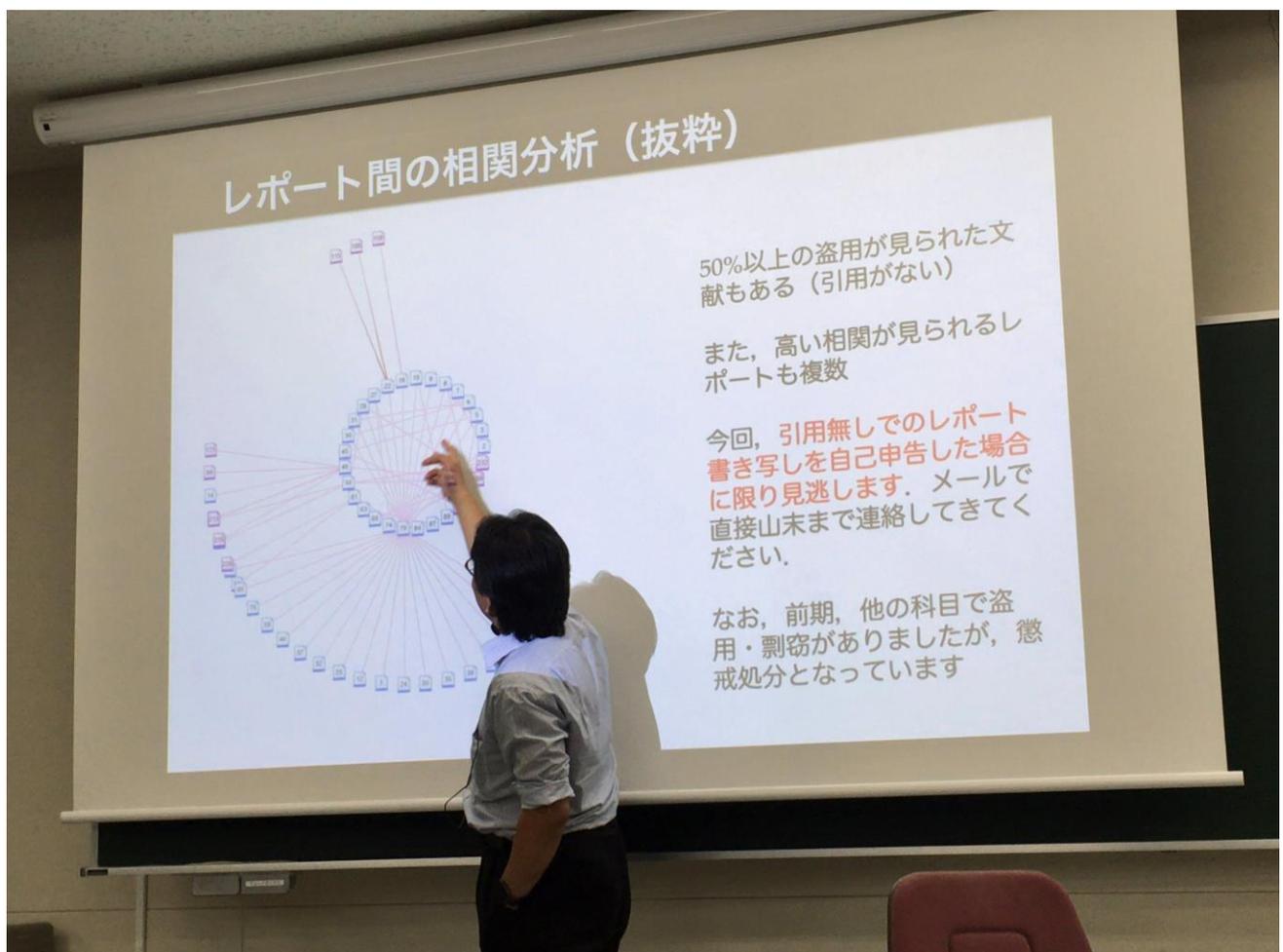
盗用とは他人のレポートや記事、論文などを盗み取るようにして、自分のものとして発表することである。盗用は禁止される。盗用と引用は異なる。生徒や学生が他の生徒や学生のレポートを転用すること

があるが、それも盗用に順ずる禁止行為である。

#### 4.2 盗用の発見・露見

中学校や高校の課題においては、課題成果物の内容が一致する場合が多いので、生徒たちは気づいていないかも知れないが、大学以降の課題では課題成果物の内容は一致しないことが多い。そのため、学生が他の学生の課題内容を転用して課題内容を作成・提出すると、禁止行為の転用を行ったことが容易にばれる。

大学では転用は盗用と同一視される場合がある。その一例として、ある大学での以下のような様子を示しておく。



(出典：ツイッターの投稿@taken\_0114 2019年10月8日)

この写真では統計という数学的技術を用いて、提出された全レポート内容の関係を調べ、図示している。内側の円とその外側の円の一部のような関係が図において見られるが、外側の円のレポートは内側のレポートのどれかの一部または全部を転用（盗用）して作成されたものであるという事実が数学的に示されている。

なお内側の円の内部に線が多数見えるのは、同一の課題を遂行したため、その遂行の上で、同一の情報

や文献を引用したからだと推測できる。

ただし内側の円を構成するレポートのうち、外側の円のレポートに赤線が飛び出ている物は、その内側のレポートの作成者が外側のレポートの作成者に転用を許した可能性を推測させる。

このように、課題の転用は数学的にばれるのでやめよう。発見は可能で露見したときのダメージは大きい。

#### 4.3 盗用が禁止される理由

盗用が禁止される理由は盗用が悪いことだからというだけではない。

先に示したようにレポートは報告文書であり、そこでは客観的事実が報告されるべきである。

しかしながら、盗用によって作成されたレポートは、その報告内容が事実であるかどうかを十分に示さない。それは当たり前である。盗用によってレポートを作成する際に、その内容の出典を正直に示したら、盗用したことがばれてしまう。そんなことをするバカはいない。

よって盗用により作成されたレポートの内容には信憑性がない。

レポートの中に信憑性がない内容の盗用レポートがまざると、どれが盗用レポートかを先に示したような数学的方法などで区別しなくてはならない。それは可能だが手間である。

よって盗用でレポートを作成する人間がいるとその人間を含む社会では手間が要る。

その手間を省くためには、そういうレポート作成をする人間を当該社会から排除すれば良い。

学術の社会、報道の社会、出版の社会ではそういう方法が採用されている。

よって盗用は重罪とされる。

#### 5.今後のレポート執筆において

2020年度 TCS 高1 生徒には以上の内容を理解してレポートとしての課題提出をしてほしい。課題提出は成績評価を得るために行われるものかも知れないが、課題提出の目的・効果はそれだけではないはずだ。高校での課題提出を通して、各生徒がレポート執筆の仕方を身につければ、将来、各々が活躍する社会内で役に立つはずである。期待している。

(了)